

## 要介護（痴呆）高齢者を対象とするデイサービス施設に関する研究 静岡大教育 小川裕子

**目 的** デイサービスは在宅福祉の三本柱の一つであり、ゴールドプランにも中学校区に一施設を整備目標とするなど注目されている。本研究では、現在機能している各種のデイサービスについて、施設概要や利用者とその家族の利用状況等の実態から示唆を得ようとするものである。

**方 法** 調査の対象は、まず施設については、静岡県下の国庫補助によるデイサービスB、C、D型（計51施設）と痴呆性高齢者を主対象とするE型（8施設）、そして、県の単独施策である高齢者介護ホーム（29施設）である。回答は施設管理者に依頼した。利用者については、いずれも痴呆性高齢者を主対象とするE型と高齢者介護ホームの利用者であり、回答は家庭での主たる介護者に依頼した。回収数は、施設計72、利用者計246である。調査は郵送で行い、1993年11月に実施した。

**結 果** 施設概要に関して、3種の施設間で差違の大きい項目は、所在する市町村、周辺環境、併設施設、そして建物概要と規模といったハードな側面である。大まかに、デイサービス施設は市部の農村地域にあり、特別養護老人ホーム等に併設されている。これに対して、介護ホームは郡部の市街地、住宅地に所在し、単独施設が多く、既存の建物の転用が多い。この他、利用者の概要、家族の主たる介護者を中心とするデイサービス利用に関わる実態が明らかになり、今後の痴呆性高齢者を対象とするデイサービス施設のあり方にいくつかの提言が得られた。